

ふるさとの昔話

平垣町の

札の辻橋

富士本町通りから旧東海道を西へ500ほど向かうと、札の辻橋にさしかかります。「札の辻」というのは、その昔、実相寺が全国でも名の知られたお寺として栄えていたころ、参拝に来た人たちが、ここでお札を買ったので付けられた、といわれています。



海野嘉一さん
平垣町(64歳)

実相寺へあと一里

札の辻橋は、平垣本町の東京電力西側を流れる共同掘に架けられた、長さ5㍍、幅6㍍ほどの橋です。ここから西へ約4㍍ほどの所に実相寺があります。

岩本山を背にした実相寺は、今から800余年前の久安年間、鳥羽法皇の仰せにより建てられたといわれています。当時、西に比叡山、東の実相寺とまでうたわれ、全国でも有名なお寺でした。寺には、何百人という修業僧が勉強し、ここで寮生活を送っていたそうです。寺の敷地も広く、一里(約4㍍)、四方あり、南は現在の平垣まであったということです。

ちょうど、札の辻橋付近が境となり、全国から

訪れる修業僧や信者たちは、ここでお札を買い境内へ向かっていったのではないのでしょうか。お寺の山門のようなものが、ここにあったのかもしれない。

旧東海道が通っているこの付近は相当昔から人家があり、栄えていたと思えるんです。昔、この付近は富士川の河原だった、といわれますがそれは間違いですね……。



東京電力(平垣)横の「札の辻橋」

地名の由来

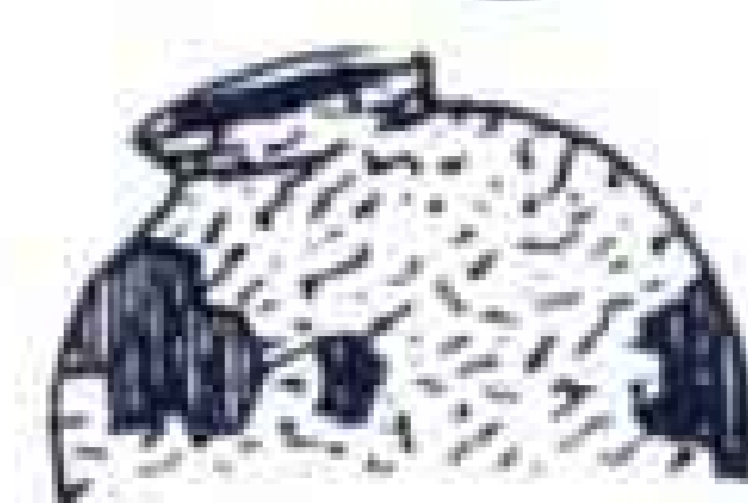
原田



原田公民館前

明治22年3月1日誕生した原田村は、原田村と三ッ沢村が合併してできた村です。したがって吉永村や須津村のように、合併のとき新しい名をつけたのではなく、昔からあった原田という名をつけたものです。しかし、いつ頃から原田と呼ばれ、どういう理由であったのか明らかではありません。記録には室町時代から原田という名が見えます。

郷土の遺跡



人々の生活

東坂古墳出土

いしくしろ 石釧(腕飾り)



愛鷹山南麓の丘陵上、現在、県立吉原工業高校敷地内には、東坂古墳と呼ばれた前方後円墳がありました。この古墳からは、鏡・玉・直刀などの外、たくさんの遺物と共に石釧と呼ばれる腕飾りが出土しました。

腕飾りは、1万年程前の縄文時代の初めから、土製のものや二枚貝の貝殻の中央に穴をあけたのもがありました。

2,000年程前の弥生時代になると、大型の巻貝を輪切りにした貝輪と呼ばれるものの外、青銅製のものも作られるようになりました。これらは、いずれも実用的なブレスレットとして使われていました。

しかし、1,500年程前の古墳時代になると、東坂古墳出土のような美しい緑色をした碧玉岩製の腕飾りも作られるようになりました。これは、頸飾りにもみられるように、緑を生命力の色とした古代思想によるものと考えられます。

この碧玉製腕飾りは、石釧の外に鍬形石・車輪石の3種があり、これらは中央の政治指導者が、各地の首長に地域の支配者の明かしとして分配したといわれています。